

「しるし」と「信仰」

(ヨハネ二・一〜二)

それは円山（札幌）で始まった。一九九六年七月九日、セ・リーグ首位の広島は貯金一一、対して「ミスター」長嶋監督率いる巨人は借金一。自力優勝の可能性は既に消え、スポーツ紙には「終戦」の二文字が躍っていた。ところが、である。二回ジャイアンツは打者一巡、しかも全員安打（満塁打一を含む）の猛攻により一挙七点を奪い、この試合に勝った。これを機に一気に波に乗った長嶋巨人はリーグ優勝を成し遂げた。同年の流行語にもなった「メーク・ドラマ（和製英語）」である。実に劇的、奇跡的だ。なるほど次にミスターの口から出てきたのは「メーク・ミラクル（奇跡）」の意「なものも不思議はない」。

閑話休題。今朝の個所は第四福音書におけるイエスによる最初の「しるし」であり、イエスを通して神の栄光が現された出来事である。この「しるし」は確かにイエスが成したものであるが、同時に人の「信仰」があったことを強く意識させる。以下、それについて考えてみたい。

一、マリヤの信仰

イエスがガリラヤのカナに着くと、そこでは結婚の宴が催されており、イエスの一行も招かれた。現代日本では少しわかりにくいかもしれないが、結婚は目出度いもの。「母マリヤがいるのだから」ということで彼らも招かれたというのはごく自然の成り行きであった。だが好事魔多し。事件は起こった。何と宴席に不可欠の葡萄酒が無くなってしまったのである。これではホストのメンツは丸つぶれ。そこでイエスの母マリヤは「イエス、何とかしてください」と頼んだのである。彼女としては「今こそ頼れる長男に」という気分だったのだろうが、それに対するイエスの言葉は驚くべきものであった。まずイエスはマリヤを「母さん」とは呼ばなかった。丁寧に「女の方」と呼び、更に「私にとつて、あなたは誰なの（直訳）」と言いつつ放ったのである。どんなに丁寧に語ったとしても、母を母と呼ばない。マリヤにとつては結構キツかったのではと思うのだが、マリヤの心は折れなかった。彼女はむしろせわしく働いている給仕たちに「彼が言いつけることは何でもして下さい」と命じたのであった。つまりここでマリヤとイエスの関係はすでに血肉によるものを越えつつあったということが解る。マリヤは長男としてのイエスではなく、イエス自身に信頼し、期待したので。

二、しもべたちの信仰

「この人は何をお命じになるのだろうか」と思っていたしもべたちに対してイエスがした命令は実に奇妙なものであった。「何処そこに行つて大急ぎでぶどう酒を十樽買つてこい」ではなかったのだ。イエスが命じたのはユダヤ人の清めのしきたりに使う水がめ六つに水を満たすことだった。必要なのはぶどう酒であり、水ではない。しかも一つを百リットルとして六百リットルである。今のように水道があるわけでもなく、軽いプラスチックのバケツがあるわけでもない。大した骨折りである。しかし彼らは確かに言われた通り、いやふちまで溢れるばかりに一杯にしたのである。

奇妙な命令はなお続く。イエスはその「水」を宴会の世話役のところを持って行けと言うのだ。先ほどまでそれが水であることを彼ら水を汲んだ給仕たち以上に知る者はいない。もう一度言う。足りないのは酒であり、水ではない。もしそれが水のままなら、世話役からの叱責は避けられない。ひよっとしたらリストラかもしれない。しかし彼らはこれもまた言われた通りそれを持って行つた。イエスのことばに信頼し、その通りに行動したので。聖書における信仰とは信じ、従うことだから、確かに彼らは信仰の行動を起こしたと言える。奇跡はその時に起こったのである。

* * *

「キリスト教もいいが、奇跡はいやだ」「キリスト教は愛の教え。これで十分。現代にそぐわない奇跡に関する記述は捨ててしまつてかまわないのでは？」これらは良く聞く疑問である。これについて『ナルニア国物語』でも有名な英国の文学者 C. S. ルイスはこう言っている。「仏教のような宗教では仏陀が行つたと言われる奇跡を取り去つても失われるものはない、いや取り去つた方がいくらいだし、イスラム教だつて奇跡の部分のをのぞいても本質はなんら変わらない。しかしキリスト教はそうはいかない。なぜならキリスト教は一つの偉大な奇跡の物語であり、時空を超えた永遠の創造者が自然界に入つて来るといふ偉大な奇跡だからである」福音書記者は水をぶどう酒に変えたこの奇跡をイエスの最初の「しるし」と呼んでいるが、言い得て妙である。この「しるし」は母と息子の「血肉」の関係を否定した上で起こり、その成就には人間の「信仰」が問われている。救いの場合と同じなのだ。長嶋監督はあれだけの差をつけられても常に前向きで「必ずひと波乱あるから」と言い続けていたと言う。人の言葉でさえ信じる時には力を産む。況や神をやである。今神を信じ、従おう。あなたも神の栄光の目撃者となる。アーメン。